

令和2年度 第3回岐阜県環境審議会企画政策部会 議事録

日 時	令和2年11月30日(月) 10:00~11:30
場 所	OKBふれあい会館第1棟3階 301中会議室
出席者	<p><委員> 18名 (欠席委員 3名) 朝田委員、板津委員、伊藤委員、大場委員、奥村委員、國島委員、小林委員、佐治木委員、澤委員、田内委員、田中委員、デュアー委員、中村委員、廣中委員、別宮委員、山田委員、新藤委員(代理:片桐環境・リサイクル課長)、秀田委員</p> <p><県(事務局)> 25名 青竹環境生活部次長、山田環境生活政策課長、岩田環境企画課長、木村環境企画課課長補佐兼係長、釘野環境企画課主査、浅野環境企画課主事、中畠環境企画課主事、井戸廃棄物対策課長、居波環境管理課長、川口清流の国づくり政策課係長、大野危機管理政策課課長補佐兼係長、正村新産業・エネルギー振興課課長補佐兼係長、亀山観光企画課主査、横山農政課係長、森農村振興課係長、兼山農地整備課係長、小木曾林政課技術課長補佐兼係長、川畑恵みの森づくり推進課技術課長補佐兼係長、今井県産材流通課係長、山田森林整備課技術課長補佐兼係長、渡辺建設政策課主事、遠藤都市政策課技術主査、古田公共交通課課長補佐兼係長、安藤教育研修課課長補佐、元田学校支援課課長補佐</p>

会議の概要

1 開会

2 環境生活部次長あいさつ

- ・本日はお忙しい中、企画政策部会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
- ・本日で、この企画政策部会も第3回となった。これまでの全体会や各部会において、委員の皆様の熱心なご議論をいただき、新たな環境基本計画の策定に向けて、課題や、目指すべき将来像、そして、県として行うべき施策の方向性などについて、明確になってきたと感じている。
- ・本日は10月に開催した第2回の部会での環境基本計画へのご意見や、今月になって皆様方にご確認いただいた素案に対するご意見を踏まえ、環境基本計画の原案をご用意したため、ご審議をお願いしたい。
- ・本日の部会でこの原案についてご確認いただけたら、今後、パブリックコメントを行い、県民の皆様のご意見を伺うとともに、市町村にも意見照会を行っていく予定としている。
- ・本日はどうぞよろしくお願いいたします。

佐治木部会長あいさつ

- ・委員の皆様方にはそれぞれの分野で、岐阜県の環境行政に関連してご活躍いただいております、御礼申し上げます。
- ・2050年までのパリ協定の話が、我が国でも、菅総理大臣がまさに100%批准するという旨のご発言をされ、岐阜県としても2050年が目標となる。さらにSDGsに関しては2030年という年限がある。ロングスパンではあるが、今回設定する環境基本計画は非常に重要になってくる。
- ・この重要な会議を今日させていただくということと、ここで出てきた案をパブリックコメントに上げていただきますので、今日は全体像をまとめていくという会議である。

3 議事

(1) 第6次岐阜県環境基本計画の素案及び目標指標案について

事務局(環境企画課長)から原案の内容について説明を行った。
また、以下のとおり発言があった。

(佐治木部会長)

- ・秀田委員、構成的には前回の委員ご指摘を反映して分かりやすくなったと思うがいかがか。

(秀田委員)

- ・全体の構成のことを申し上げて事務局は大変だったかなと思いますけど、うまく整理していただいた結果、岐阜県全体としてどういうところ、どういう状態を目指していくのかという辺りが大分具体的に書かれましたし、それを実現するために、県として何をやっていくのか、或いは県民の皆さんに、どういう行動をしてもらいたいとかこういったところが、うまくストーリーとしてつながってきたかなと思いますので、これまでの基本計画に比べると県民の皆さんにも読みやすく、実効性の高いものになってきたのではないかなというふうに思います。

(小林委員)

- ・3点。まずコラム1の「SDG s ウェディングケーキモデル図」について、字が全部英語なので、少し日本語を入れた方がいいのでは。
- ・次にコラム8の「プラスチックごみ」について、プラスチックそのものが悪いわけではなく、使い捨てのプラスチックが問題だということをもう少し書き込んでいただけたら。プラスチックそのものは有用だが、自分たちの使い方・捨て方を少し振り返ったほうがいいという文面を入れていただきたい。
- ・最後にコラム18の「省エネ」について、白熱電球とLEDランプとの比較があるが、今はもう蛍光灯や白熱電球を国内で生産していないため、もう少し新しい例を挙げていただいた方がよいのでは。

(岩田環境企画課長)

- ・1点目「SDG s ウェディングケーキモデル図」について、注釈を入れる形になろうかと思いますが入れさせていただきます。
- ・2点目の「プラスチックごみ」について、問題の本質はどこにあるのかということかと思ますので、表現を見直したい。
- ・最後「省エネ」について、まだまだ蛍光灯を使っている方がみえるということでこのように表現したが、これも工夫できるところはしていく。

(大場委員)

- ・畜産関係は、動物福祉との関係で近い将来非常に厳しくなっていくだろうと考えている。「動物に優しく向き合う」といった動きがヨーロッパを中心に急速に広がっており、今後畜産分野を含む産業界はこうした市民のムーブメントに上手く対応できるのか、かなり大変なことになるんじゃないかなと。
- ・そういう意味で、その予測なり研究なりの情報収集が大事で、その情報を県内企業さんとか色々な人たちに発信していくことが必要。
- ・例えば、県が企業に対しESG投資について啓発するなどの手立てがまだまだ少ない。その辺を下支えしておかないと、そのうち追いつかなくなるんじゃないか。
- ・せっかく岐阜大学内に気候変動適応センターを作っているので、ぜひその辺のテーマも投げかけて、県の環境政策や指針をつくり、本計画にも練り込んでいただけるとよい。

(岩田環境企画課長)

- ・今お話しいただいた内容は、ESG投資についてなど、基本的には本計画の中に含まれていると理解している。本計画の延長線上で整理できるということであれば、センターを含めそれぞれ施策を推進する関係課において、今お話しいただいた内容を意識して取り組んでいきたい。

(佐治木部会長)

- ・60ページの「達成目標」の目標値について、「新規林業就業者数」は現状の249人を2023年に400人にするとあるが、これほど増えるのか。
- ・また「農地維持活動に集落で取り組む協定面積」は現状値とほとんど変化がない。この辺り詳しく説明いただきたい。

(山田森林整備課技術課長補佐兼係長)

- ・（「新規林業就業者数」について）「各年度80人、2023年までの5年間で400人」を確保したいということで、2019年は76人、2018年は68人という実績から見てもそれほど高い数値とは認識していない。

(森農村振興課係長)

- ・（「農地維持活動に集落で取り組む協定面積」について）今現在、県下で「日本型直接支払い制度」というものがあり、例えば集落の皆様と「これ以上農地を荒らさない」といった協定を結んでいる。
- ・この面積が2019年時点で28,918haということで、年々農地面積そのものが減少している状況の中、何とかこのピークの数字を維持しようということで位置付けているというもの。

(佐治木部会長)

- ・今お話しいただいた内容は、脚注でもよいので追加しておいてほしい。

(國島委員)

- ・水田は村などで営農組合をつくり運営している。お年寄りが一生懸命耕してくれているが、その方たちが亡くなってしまわれると、直ちに耕作放棄地になってしまう。
- ・私たち農業委員はそれを防ぐためにパトロールをして、持ち主の方に維持を依頼し、適わない場合は代わりに耕作してくださる方を探したりしている。しかし、耕作放棄地は少しずつ増加しているのが現状。
- ・また、今年の稲作ではトビイロウンカが大発生した。8月の農業新聞にはちらりとそのようなことが載っていた。しかし私たちの市町村で取り上げられたのは被害が現れてから。
- ・さらにジャンボタニシの被害もあり、今年は作況指数が本当に悪かった。
- ・情報や対策をもっと早くに提供してもらえていれば、被害を軽減できていたかもしれない。
- ・こうした状況が続くことで、農業に対する将来像が描けず意欲が無くなることを危惧する。

(岩田環境企画課長)

- ・お話を聞くにやはり農業と環境は非常に関連が深いということで、新たな「ぎふ農業・農村基本計画」とも目標値やパブリックコメントの期間等を合わせるなど、連携を図っていく。

(奥村委員)

- ・9ページ「新型コロナウイルス感染症の教訓と新しいライフスタイルへの転換」の、5つの〇のロジックを落とし込んで矢印下の課題と結び付けているが、何となく違和感がある。
- ・「鳥獣生物の乱獲などにより、今まで秘められていたウイルスが変異し、私たち人間自身を脅かす時代になってきた。だからまず脱炭素社会など、環境問題への取組もあわせて行おうとするグリーンリカバリーが広がりが見せている」というロジックの中に、何か新しい人類の取組が問われているんだ、もしくは向き合わなきゃいけないんだという、意図がないと。
- ・例えば、ウイルスに罹患した鳥獣生物は隔離すればよいが、（基本理念の）「共生」という言葉に紐づけたいから、課題の中でもこの言葉が取り上げられているように見える。この辺りも含めて、読む人が「そうだね」って思えるような流れにすべき。
- ・まだコロナ感染症の真ただ中であって、検証も十分にされていない状況ではあるが、過去の教訓も含めて、人間はこれから自然と共生する未来の構想図を作るときなんだ、というような注釈とか繋がり文が必要。

(佐治木部会長)

- ・今おっしゃったのは、ペストの時代はどう対応した、あるいはあの時は対応が悪かったから世界中に蔓延してしまった。そういうことと照らし合わせ、歴史も紐解きながら、動物共生のところも考えていくべきというご意見。

(岩田環境企画課長)

- ・「読まれた方がうまく理解できないのでは」という趣旨かと思うので、整理する。
- ・コロナやエボラ出血熱などは野生動物との関係からスタートしているのではないか、ということが前段にあり、それが今日のグローバル社会では一気に広がってしまった。
- ・そこからの教訓ということで、まだ真ただ中であるが、やはりただ単にコロナをなくすだけではなく、コロナ後の新たな働き方・生き方も含め、世界中で模索していると。こういった内容を全体に書いた上で課題というふうに整理したが、表現方法の見直しを検討する。

(廣中委員)

- ・60ページの「地域循環共生圏プラットフォーム登録団体数」について、自分は郡上市の地域循環共生圏形成に関わらせていただいている。
- ・プラットフォームを作るために支援をするということだが、こういった青写真を作ることも簡単ではないが、作ることよりもいかに走らせていくかがより重要。そのあたりのイメージは。

(岩田環境企画課長)

- ・おっしゃる通りプラットフォームを立ち上げた後の展開が非常に大事だと理解している。
- ・しかし、まずは最初の立ち上げを支援したい。その上で、展開されるものについても個々に協力・支援していきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局（環境企画課長）から今後のスケジュールについて説明を行った。

(3) 「第3次岐阜県廃棄物処理計画」の策定状況について

事務局（廃棄物対策課長）から計画の策定状況について説明を行った。

(4) 「岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画（仮称）」の策定状況及び「岐阜県地球温暖化防止基本条例」の改正について

事務局（環境管理課長）から計画の策定状況及び条例の改正について説明を行った。

(佐治木部会長)

- ・以上をもって予定していた議題は全て終了したが、この機会に何か意見があれば。

(澤委員)

- ・今の炭素社会に向けてのところの説明で、もっと根本的に説明した方がわかりやすいのではと思ったのが「化石燃料を使っているから地球が温暖化している」というところ。
- ・例えば、岐阜県として木質バイオマスの利用促進や、森林面積が減少しているという説明もこの中にあるが、今林業で間伐活動をしている身としては、どんどん伐らないと里山が荒れていくという社会問題がある。
- ・しかしこの計画だけ見ると、森林はもっと守っていかないといけなくて、燃やしてはいけないと読める。そうすると、木を伐ってエネルギー利用した方がいいのに、混同してしまう。そのあたりをしっかりと県民の皆さんに報告するとわかりやすいのでは。

(佐治木部会長)

- ・太古の昔にできた化石燃料と、現在、光合成でぐるぐる回っているいわゆるゼロエミッションというふうに考えられる燃料とはまた別個のものだということ。この中にもたくさん書かれているがもう少し明確にした方がいいという話。

(居波環境管理課長)

- ・計画に既にも書き込んでいる部分ではあるが、県民の方にわかりやすく伝えることが大事ということで、参考とさせていただきます。

(佐治木部会長)

- ・ポンチ絵（概略図）を作成するなど、そういった努力も是非お願いしたい。

(奥村委員)

- ・一県民としてこういう機会に関わらせていただいたことに感謝。日常を岐阜で送る身として、この場で学んで考えて理解したことを、地域に戻って地域の方と考えていくことが、自分のミッションだと思っている。
- ・各委員の意見を言葉に紡いだり、絵や表にしてより見やすいように一生懸命考えている事務局。来る度にすごくブラッシュアップされていることに感動しながら、今を迎えている。
- ・この先自分のすべきことも踏まえて、もうしばらく学ばせていただけたら。感謝と共に、次代を考える機会をいただけたことに少し感動を覚えており、この場をお借りしてお礼を伝えたい。

(佐治木部会長)

- ・事務局の努力はものすごい。どうもありがとうございます。

(大場委員)

- ・基本計画の66ページに「岐阜大学の次世代地域リーダー育成プログラム」云々というのがあり、環境リーダーコース開設に向けて佐治木先生や事務局と相談しながら進めているところ。若者に環境学習をしていただきたくチャンスを作ろうということで計画している。
- ・単位互換という形で、岐阜大学だけではなく県内ほとんどの高等教育機関の学生たちに学んでいただけるような取組になる。

- ・環境リーダーコース開設の発端はこの審議会のメンバーということで、まだまだ計画途上だが、ぜひ皆さんにもいろんな形でご協力いただけたら。

(佐治木部会長)

- ・本件は大場先生と事務局にご活躍いただいております、カリキュラムの組み方から大場先生にご尽力いただいているところ。
- ・是非環境審議会全体として盛り上げていければということで、ご協力をお願いしたい。

(別宮委員)

- ・労働組合でエコキャップ運動を行っている。2020年も620kgをリサイクルしたが、約2kgにつき1人分のポリオワクチンが世界の子供たちに届けられることになる。この取組を2012年から続けている。そういった身近な取組が他で為されているところがあればお聞かせいただきたい。

(岩田環境企画課長)

- ・調べてみる。

(佐治木部会長)

- ・中国がゴミの輸入をすべてシャットアウトするという情報も出ていたので、そういったこともこれから大事になってくる。世界の動向を注視し、計画に盛り込めるものがあれば盛り込んでいただければ。

(新藤委員代理：片桐中部経済産業局資源エネルギー環境部環境・リサイクル課長)

- ・基本計画の82ページ「コラム21事業者の皆さんに期待する取組」について、1回目の部会の時に経済産業省の「循環経済ビジョン」を紹介したところであり、欧州ではかなり先行して取組が進んでいることもあり、ぜひ事業者の方々にはその取組を進めていただきたいと思います。
- ・中部経済産業局としても、ビジョンの姿をこの中部地域で実現させていきたい。
- ・経済と環境の両立ということで、産業競争力の強化ということと、環境面への貢献というか少しでも廃棄を少なくするというのでやっているの、その内容をここに盛り込んでいただけるとありがたい。

(岩田環境企画課長)

- ・コラムに追加したい。

(佐治木部会長)

- ・以上をもって、予定していた議題は全て終了し、本日の部会を終了する。

<以 上>